

2024年 日本漢方生薬製剤協会会長 年頭ご挨拶

2024年1月19日（金）

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

ご来賓の皆様には、ご多忙の中、ご臨席賜り誠にありがとうございます。

まずは、令和6年能登半島地震において、お亡くなりになられた方に哀悼の意を表しますとともに、被災されました皆さまに心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と健康、そして被災地の一日も早い復興と平穏な日常が戻られますことを心よりお祈りいたします。

当協会会員会社でも、幸い人的被害は無かったものの、家屋が被害に遭った社員もおります。生産拠点や事業所については、一部被害を受けたものの復旧に取り組んだ結果、現時点では通常操業できております。会員会社では、義援金や申請のもと漢方薬や衛生用品などの提供による支援も実施させていただいております。

また、日本東洋医学会では、東日本大震災における被災者への漢方治療の経験を踏まえ、被災された方々が過酷な避難生活により、様々な症状の発症が懸念されることから、どのような症状にどのような漢方薬で対応すべきかを分かりやすく発信いただいております。当協会としても被災地への医薬品の優先供給に努めるなど尽力してまいります。

さて、振り返りますと、この3年あまりコロナ禍という大変な試練を経験いたしました。そのような苦境の中、日本東洋学会主導の研究等により、新型コロナウイルス感染症による重症化抑制および後遺症治療に対して、漢方製剤が有用であるというエビデンスが発信され、新たな可能性も見出されております。その一方で、同感染症における各症状への治療薬が不足する中、当該漢方処方への大きな需要が発生したことで、限定出荷など安定供給に支障をきたす事態が発生し、ご迷惑をお掛けしておりますこと、改めましてお詫び申し上げます。できる限り早期に、通常出荷体制となりますよう全力を尽くしてまいります。

漢方製剤等の安定供給の前提である原料生薬の安定確保についても、日中伝統薬交流の再開を目指すとともに、国内で栽培可能な生薬については、薬用作物産地支援協議会の主催で農林水産省、厚生労働省のご支援のもと、国内生産の推進・拡大に向けた取り組みを継続しております。

また、昨年5月の当協会創立40周年記念講演会では、国立医薬品食品衛生研究所・名誉所長の合田幸広先生が、医療用漢方製剤の、より服用しやすい剤形追加への期待について熱く語られました。新たなレギュレーションのもと、是非とも成し遂げてまいりたいと決意を新たにしております。

そして、今般、中医協において取りまとめられた「令和6年度薬価改定の骨子」では、わが国の医薬品産業の競争力向上を目指す力強い支援をいただき、医療用漢方製剤等の薬価に関しても、不採算品再算定の柔軟かつ確実な適用といった価格を下支えする措置の充実化が図られ、これを機にさらに安定供給体制を強固なものとしてまいる所存であります。厚労省、日薬連、中医協などの関係各位のご尽力に、心から感謝と御礼を申し上げます。

毎年開催しております「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会」は、本年2月19日に「コロナ後の医療における課題と漢方薬の必要性」をテーマに、社会的フレイルの増加に対する漢方薬の必要性および漢方製剤等を取り巻く課題についてご発表・ご討議いただきます。

一般用漢方生薬製剤については、セルフメディケーション税制が2026年まで延長されましたが、税制の恒久化や全ての一般用漢方生薬製剤を対象とすること等を引き続き要望してまいります。

また、女性の心と身体健康課題への対応として、トウキやセンキュウ等の生薬を配合した製剤は、フェムテックとしての利活用が期待されており、これらの啓発活動を進めてまいります。

このように新たな展開が期待される中、改めまして高品質な漢方製剤・生薬製剤を安定供給し、適正使用の推進により、国民の皆様の健康と医療に貢献してまいりたい所存でございます。

本年も当協会の活動に一層のご指導・ご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

以 上